

京都新聞広告「大切な京都に共産党の市長は『NO!』」についての社民党への要請書

20200126 高橋良平（社民党支持者）

1月26日日曜日の京都新聞朝刊に「大切な京都に共産党の市長は『NO!』」と題する広告が掲載されました。そして「京都はいま大きな岐路に立たされています。わたしたちの京都を共産党による独善的な市政に陥らせてはいけません。国や府との連携なしには京都の発展は望めません」と書かれたあとに文章がつづき「自民党京都府連、公明党本部、～中略～、社民党京都府連、そのほか、～中略～、幅広い団体が力を合わせています」と書かれています。

この広告の最大の問題は「共産党の市長に『NO!』」という表題がおおよそ党派性丸出しであるということに尽きます。どの党だろうが、肝心なことは政策と政治的实践であり、さらにいえば自治体の首長選挙の場合には候補者本人の意思や政治信条というものが大切になることは言うまでもありません。しかし、この広告の見出しを読む限りでは、ひたすら「共産党だからダメ」という印象を読む側にあたえています。もし「共産党だからダメ」というならば、その具体的根拠をしっかりと提示するべきですが、この広告ではわずかに「共産党による独善的な市政」としか述べられていません。

社会民主党は民主主義政党です。そして民主主義とは、有権者・市民一人一人がさまざまな思想・信条の自由にもとづく対話や政治的实践（政党活動を含む）をかさねることで成立しています。しかるにこの広告は、そのような有権者・市民の思想・信条の自由、政治的实践の自由を否定する傾向を強く有していると考えます。

社会民主党京都府連合がどの首長を支持するかは、無論京都府連合が判断することです。ですが、支持候補者や選挙組織が、社民党の主張や民主主義とあまりにも乖離した政策や方法を取った場合、社会民主党京都府連合はその政策や手法に対して毅然とした対応をとることが求められると考えます。一地方組織といえども社民党の名を名乗る以上、それは必要なことだと思います。

以上の観点から以下要請します。

1. 社民党京都府連合として、京都新聞広告「大切な京都に共産党の市長は『NO!』」について、批判的な観点からの意見を表明してください。

以上